

## 知多半島周辺におけるウミガメ類産卵状況及び死亡漂着情報

2015年の知多半島周辺におけるアカウミガメの産卵は2例でした(図-1)。例年と比較すると発見が少ないと言えます。



〔図-1〕産卵地点

2例のうちの1例は台風による卵の流出で発見され、全て死亡していました(写真-1,2)。ウミガメの卵は上陸の際に残る足跡から発見することがほとんどであり、足跡が消えてしまっから卵を確認することは非常に困難です。孵化率や雌雄比などに影響が出る可能性があることから、当園では卵の移植や一時避難は行わない方針ですが、仔ガメの帰海を妨げる光害や、台風による卵の流出が考えられる場合は移植作業を行います。今回は、気付かず卵が全滅してしまい残念な結果となってしまいました。



〔写真-1〕台風による産卵巣の流出



〔写真-2〕流出した卵

日本は北太平洋における唯一のアカウミガメ産卵地ですが、全国的に見るとここ2年、アカウミガメの産卵巣の発見数が減少しています。母ガメは2～3年に一度産卵を行う個体が多いと考えられており、引き続き今年、来年と産卵数が少なくなかった場合には、北太平洋のアカウミガメの母ガメが減少しているとも推測されます。

また、残念ながら死亡漂着は4例ありました。性別は雄2頭、雌1頭、不明1頭で、いずれも成体と思われるアカウミガメでした(図-2)(写真-3~6)。中には国内の他地域で標識放流された個体もありました。直接的な死因は分かりませんが、四肢が欠損したり、下半身が切断されている個体がありました。何らかの事故に遭遇した可能性も否定できません。ウミガメの個体群を守るためには、野生下での死亡原因を追究していくことも重要です。当園では引き続き調査を行うことにより、データを蓄積していきたいと考えています。



〔図-2〕死亡漂着発見場所



〔写真-3〕 大谷海岸



〔写真-4〕 坂井海岸



〔写真-5〕 山海海岸



〔写真-6〕 蒲池海岸

産卵や死体漂着の発見は、散歩中の方やサーファーの方など、一般の方々による情報がほとんどです。今後も、記録を残していくために皆さんからいただく情報がとても重要です。産卵はもとより、足跡を見つけたり、死体が打ちあがっていた場合、南知多ビーチランドまでご連絡ください。ただし、申し訳ありませんがお寄せいただく情報は、知多半島周辺に限らせていただきます。(伊藤幸太郎)